

公益財団法人あいちコミュニティ財団  
2019 年度事業報告書

【1】 当年度の概要

指定寄付金の管理費への流用問題が、2019 年 3 月下旬に複数のマスコミから取材され、4 月上旬に新聞 2 紙で、5 月上旬にインターネットニュースで報道されたことから、2019 年度は、非常に厳しいスタートを切ることとなりました。

このような非常に厳しい状況ではありましたが、当年度に実施することができた事業の結果は、次のとおりです。

当年度の寄付金総額は 4,552 千円で、このうち公益目的事業に関連する寄付金額は 70 千円でした。

2018 年度に創設した「あいち・なごや・つながる基金」の助成対象となった 3 事業は、2019 年度に予定どおり実施されました。

支援プログラムについては、株式会社デンソーから受託した 2 つのプログラムを実施し、8 団体が事業を実施しました。

情報の発信・提供については、「あいちコミュニティ財団事業報告書 2018」を発行し、2018 年度に実施した助成事業及び協働事業の成果の情報発信・共有を図りました。

上記のほか、社会を構成する多様な主体が市民公益活動を支え、担う仕組みの検討及び実施に係る事業として、当財団の一連の不祥事を総括する「あいちコミュニティ財団総括シンポジウム」を開催しました。

【2】 組織運営に関する事項

1 概要

当年度は、法人運営の健全化を図るため、流用額の全額約 446 万円を役員等が補填することを 5 月の理事会で決議し、7 月までに全額を補填しました。

また、6 月の評議員会において、9 名の理事のうち 8 名が辞任し、新たに 4 名が選任されて、理事 5 名による新体制が発足しました。

2 評議員会の開催状況

評議員総数：4 月 9 日まで 12 名、4 月 10 日から 6 月 11 日まで 11 名、6 月 12 日から 3 月 31 日まで 12 名。

| 開催日      | 出席                          | 審議事項  | 報告事項   |
|----------|-----------------------------|---|--|
| 4 月 10 日 | 評議員 8 名<br>理事 5 名<br>監事 1 名 | ・理事の選任  | ・中日新聞掲載記事<br>・今後の財団運営  |
| 6 月 12 日 | 評議員 7 名<br>理事 3 名<br>監事 2 名 | ・評議員、理事及び監事の選任<br>・2018 年度事業報告及び決算                          | ・2019 年度事業計画及び予算   |
| 8 月 30 日 | 評議員 5 名<br>理事 2 名<br>監事 1 名 | ※「評議員会運営規則の制定」を審議する予定であったが、定足数を満たさなかったため、後日、みなし決議を行なうこととした。 | ・愛知県立入検査状況<br>・2019 年度事業計画及び予算の変更<br>・理事会運営規則の制定<br>・監事監査規程の制定<br>・経理規程の全部改正 |
| 9 月 5 日  | みなし決議                       | ・評議員会運営規則の制定  |  |

3 理事会の開催状況

理事総数：6 月 11 日まで 9 名、6 月 12 日から 5 名。

監事総数：6月11日まで3名、6月12日から2名。

| 開催日   | 出席                    | 審議事項  | 報告事項   |
|-------|-----------------------|---|--|
| 4月10日 | 理事6名<br>監事1名          | ・常務理事の選任<br>・寄付者への説明及び今後の財団運営   | ・中日新聞掲載記事<br>・評議員会の会議結果                                      |
| 5月22日 | 理事6名<br>監事2名          | ・評議員会の日時及び場所並びに目的である事項<br>・評議員、理事及び監事の選任方針<br>・2018年度事業報告<br>・2018年度決算                                |  |
| 6月25日 | みなし決議                 | ・代表理事及び常務理事の選任  |  |
| 8月28日 | 理事3名<br>監事1名<br>ネット会議 | ・評議員会の日時及び場所並びに目的である事項<br>・理事会運営規則の制定<br>・監事監査規程の制定<br>・経理規程の全部改正<br>・2019年度事業計画の変更<br>・2019年度収支予算の補正 | ・愛知県立入検査状況   |
| 11月5日 | 理事5名<br>監事1名<br>ネット会議 | ・事務所の移転<br><br>※ 移転日が確定した段階で、みなし決議を行なう。   | ・財団の総括と今後の運営方針<br>・デンソープロボノプログラム（第4期）<br>・株式会社三河の山里コミュニティパワー |
| 1月6日  | みなし決議                 | ・事務所の移転<br>・2019年度事業計画の変更<br>・2019年度収支予算の補正<br>・金銭出納規程の制定   |  |
| 3月31日 | みなし決議                 | ・2020年度事業計画<br>・2020年度収支予算  |  |

### 【3】事業に関する事項

前年度に引き続き、市民公益活動団体等の組織基盤を強化し、安心できる地域の未来を創造することを目的として、以下の事業を行いました。

#### 1 公益目的事業

(1) 市民公益活動を行う団体等に仲介・提供するために、必要な資金等の資源を募り、確保する事業

##### ア 「事業」への寄付募集

市民公益活動団体からの事業計画を公開し、賛同者を募る事業ですが、本年度は実施しませんでした。

##### イ 「テーマ」への寄付募集（寄付総額 69,580 円）

「あいち・なごや・つながる基金」の賛同者を募り、寄付の受入れを行いました

##### ウ 「賛助会員」の募集（受取会費総額 375,000 円）

前年度に引き続き、当財団の目的に賛同し、事業運営にご協力いただく「賛助会員」を募集しました。本年度の賛助会員数は32名でした。

##### エ 法人運営への寄付募集（寄付総額 4,482,000 円うち 4,460,000 円が寄付金流用に係る補填金）

上記の寄付及び賛助会員の募集のほかにも、当財団の運営へご協力くださる方の寄付を受け入れました。

(2) 市民公益活動を行う団体等に対し、助成等を行う事業

ア 事業指定プログラム「ミエルカ」

市民公益活動団体からの事業計画を公開し、資金を仲介する事業ですが、本年度は実施しませんでした。

イ テーマ提案プログラム「エンタク」

マルチステークホルダーによる提案で基金を設置し、賛同者を募る事業。

「あいち・なごや・つながる基金」から、次の3事業に対して総額180万円を助成しました。

① 難民応援DAN養成講座

団体名：NPO法人名古屋難民支援室

事業内容：難民についての理解を広げ、一人ひとりが自分にできる支援の形を見つけるための「難民について初めて知る講座」を開催。また、講座テキストや内容の開発、ボランティアを育成するための「難民応援DAN養成講座」を開催し、継続的な支援体制を整えた。

助成金額：900,000円

② 外国ルーツの若者に対するキャリア教育支援プロジェクト

団体名：一般社団法人DiVE.tv

事業内容：多文化キャンプ（愛知県内に住む13～18歳の若者52名（うち外国にルーツを持つ者45名）が参加し、アートワークショップ及びキャリアワークショップを開催。）と職場見学会を実施した。

助成金額：450,000円

③ 発達障がい等、働く上でのコミュニケーションに生き辛さを抱える人のための「コミュニケーションワークショップ事業」、および、企業等への「発達障がい理解促進事業」

団体名：認定NPO法人パンドラの会

事業内容：コミュニケーションに不安を抱えている発達障がいのある人を対象に、「コミュニケーションを楽しく試すワークショップ」を開催するとともに、企業や教育機関等に、大人の発達障がいについて理解を深めてもらうための報告会を開催した。

助成金額：450,000円

ウ 冠プログラム「カンムリ」

企業等の寄付による基金を設置する事業ですが、本年度は実施しませんでした。

※ 2018年度に「住友理工あったか未来基金」が助成した次の3事業について、事業の成果を発信・共有するため、5月27日に「助成事業報告会」を開催しました。

① ろう児保護者の手話教室（認定NPO法人名古屋ろう国際センター、名古屋市）

② 発達凸凹の子どもを、地域で守り育てよう 子育て中のママに寄り添い、情報マップ作り（NPO法人こどもサポートクラブ東海、犬山市）

③ 0歳から体を動かすことの大切さを広げる。～体験学習講座の開催～（一般社団法人日本疾病予防教育協会、名古屋市）

(3) 市民公益活動を支援するために、不動産等の資源を活用する事業

「特定寄付信託」等の開発・販売と「遺贈寄付相談センター」の運営ですが、本年度は実施しませんでした。

(4) 前各号に掲げるもののほか、市民公益活動を行う団体等に対し、その経営に必要な資源を提供する事業

ア 「セミナー」「ワークショップ」等の開催

市民公益活動を行う団体等の経営に資する情報・ノウハウ等を提供するため、参加者を公募

してセミナー、ワークショップ等を開催するものですが、本年度は実施しませんでした。

#### イ 支援プログラムの実施

デンソープロボノプログラムの企画・運営（第3期：支援先3団体、第4期：支援先4団体）

2016年度から始まった株式会社デンソーの「デンソープロボノプログラム」の企画・運営を引き続き受託しました。

デンソープロボノプログラムは、『課題解決』を仕事の定義とする株式会社デンソーの『デンソー流仕事の進め方』で、NPOの課題解決力の向上を目指すプログラムです。

事業内容は、2018年度の第3期プロボノプログラムの支援先である3団体（NPO法人いきもの語り、NPO法人sopa.jp、東海日本語ネットワーク）がデンソーグループはあとふる基金（デンソーグループ社員有志の寄付金を積み立てた基金）からそれぞれ100万円の助成金を受けて実施する事業に関する進行管理業務を行いました。

また、2019年度の第4期プロボノプログラムにおいては、当財団の理事4名が関わる5団体をプロボノ支援先とし、デンソー社員26名が1月から3月まで実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、3月の現場における支援は行うことができず、WEB会議等で対応しました（成果報告会を4月4日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の収束後に開催予定。）。

【プロボノ支援事業】 ※ 人数はプロボノプログラム参加社員数

株式会社PEER（代表取締役 佐藤真琴） 6名

学校や企業へのがん教育プログラムのパッケージ作成

社会福祉法人むそう（理事長 戸枝陽基） 8名

① カフェのメニューの企画（事業所ほわわ、事業所ケーズピット）

② 施設の里山スペースの活用（久遠チョコレート名古屋藤巻店）

NPO法人せき・まちづくり NPO ふうめらん（代表理事 北村隆幸） 5名

上之保地区における全住民アンケート分析のテンプレートづくり

株式会社イノベティブ・デザインキュー・NPO法人外国人就労支援センター

（株式会社代表取締役、NPO法人理事 山元梢） 7名

① 多様性や生態系を企業やコミュニティに実装するためのシステム構築とその体系化（デイサービス「笑々」（ここにこ））

② 自然環境とテクノロジーの融合による、次世代の自然環境に対する考察、ならびに、里山経済圏におけるテクノロジーの導入による暮らしの効率化に関する実験研究（いるかビレッジ・プロジェクト）

#### (5) 市民公益活動を行う団体等及び資源提供者に対するコンサルティング事業

##### ア 「フレンドレイザー」等の募集・育成

「フレンドレイザー」は、「(2) ア 事業指定プログラム『ミエルカ』」において、NPOの“志金”調達を応援するボランティアスタッフですが、本年度は事業がありませんでした。

##### イ 課題の深掘りをサポートするボランティア「モグラ」等の募集・育成

「モグラ」は、「(2) イ テーマ提案プログラム『エンタク』」で助成対象団体が行う調査事業において、団体による課題の深掘りをサポートするボランティアスタッフです。

本年度は、①難民応援DAN養成講座（NPO法人名古屋難民支援室）で1名、③発達障がい等、働く上でのコミュニケーションに生き辛さを抱える人のための「コミュニケーションワークショップ事業」、および、企業等への「発達障がい理解促進事業」（認定NPO法人パンドラの会）で1名が活動しました。

##### ウ 助成事業の成果を伝えるボランティア「ツムギスト」の募集・育成

「ツムギスト」は、助成事業の成果を伝えるボランティアですが、本年度は事業がありませんでした。

##### エ 寄付つき商品の開発・紹介に取り組むボランティアスタッフ「ママボノ&パパボノ」の募集・

育成

「ママボノ&パパボノ」は、「あいち“志金”マルシェ化計画」参加法人の寄付つき商品開発を支援するボランティアですが、本年度は事業がありませんでした。

オ 他団体との連携

全国コミュニティ財団協会第6回年次大会の開催

一般社団法人全国コミュニティ財団協会と連携して、「全国コミュニティ財団協会第6回年次大会」を「あいちコミュニティ財団総括シンポジウム」と同じ日に同じ会場で開催しました。

日 時：2020年2月8日（土）13：30～17：00

場 所：日本福祉大学 東海キャンパス

参加者：66名

内 容：

- ① 第2回全国地域貢献顕彰 表彰式
- ② シンポジウム「組織の再生 ～あいちコミュニティ財団の事例からあらためて考える～」  
話し手：戸枝陽基（公益財団法人あいちコミュニティ財団常務理事）  
聞き手：石原達也（一般社団法人全国コミュニティ財団協会常務理事）
- ③ 分科会「コミュニティ財団は社会にこたえられているのか」

【分科会 A（休眠預金とガバナンス）】

A-1. 休眠預金という誰のものでもないお金を社会に課題解決の実現として還せるか。

●事例提供者：

高橋 潤（公益財団法人長野県みらい基金理事長）

小阪 亘（公益財団法人みらいファン沖縄代表理事）

○モデレーター：

有井 安仁（一般社団法人全国コミュニティ財団協会理事）

A-2. 地域社会と寄付者に信頼されうる組織体制を構築できるか。

●事例提供者：

戸枝 陽基（公益財団法人あいちコミュニティ財団常務理事）

鈴木 祐司（公益財団法人地域創造基金さなぶり専務理事）

○モデレーター：

可児 卓馬（公益財団法人京都地域創造基金専務理事）

【分科会 B（災害とコミュニティ）】

B-1. 災害時における現場のニーズに即して支援金を仲介する役割を果たせるか。

●事例提供者：

志村 はるみ「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」

山崎 庸貴 「ふくしま台風 19 号災害支援基金」

山田健一郎（一般社団法人全国コミュニティ財団協会会長・「佐賀災害基金」）

○モデレーター：

石原 達也（一般社団法人全国コミュニティ財団協会常務理事）

(6) 市民公益活動に係る調査研究、情報収集及び情報発信に関する事業

ア 「ワガコトサロン」の実施

「ワガコトサロン」は、「あいちの課題を『我が事』としてとらえ、明日からのアクションを考えよう！」という理念のもと、県内外でリーダーシップを発揮するゲストに話題提供いただくとともに、参加者同士が交流する場ですが、本年度は開催しませんでした。

イ 「年次報告書」の発行

2018年度に実施した助成事業及び協働事業の成果、そして、2019年4月上旬に新聞報道された寄付金流用問題の経緯等について情報発信・共有するため、「あいちコミュニティ財団事業報告書2018」を2020年1月に発行し、財団設立以降の寄付者全員に郵送しました（2月8日開催の

総括シンポジウムの資料としても使用)。

(7) 市民公益活動を推進するための普及・啓発物品、寄附金付物品及び出版物等の販売  
市民公益活動を推進するための情報等の普及・啓発を図るべく、物品・出版物等の販売を行なう  
ものですが、本年度の販売はありませんでした。

(8) 前各号に掲げる事業のほか、社会を構成する多様な主体が市民公益活動を支え、担う仕組みの検  
討及び実施に係る事業

あいちコミュニティ財団総括シンポジウムの開催

2017年の未払い賃金・パワハラ問題、2019年の寄付金流用問題を惹き起こした当財団の諸問  
題について検討を重ね、2019年8月に行なわれた愛知県の法定立入検査における指摘事項も踏  
まえながら、組織を整えつつある中、当財団のステイクホルダーの皆様へ、これまでの総括と今  
後の方針をご説明し、新たなスタートへのご理解をいただく場にできればと考え、シンポジウム  
を開催しました。

日 時：2020年2月8日(土) 10:00~12:00

場 所：日本福祉大学 東海キャンパス

参加者：65名 + 財団理事・職員5名

内 容：

① 諸問題の総括(戸枝陽基常務理事)

② パネルディスカッション「諸問題の総括とこれからのこと」

登壇者：萩原喜之(一般社団法人三河の山里課題解決ファーム理事)

久野美奈子(NPO法人起業支援ネット 代表理事)

佐藤真琴代表理事

北村隆幸理事

山元梢理事

聞き手：戸枝陽基常務理事

③ 意見交換会

#### 【4】附属明細書

2019年度の事業報告書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条  
第3項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書は作  
成しておりません。